

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ③子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ

- ◆ 今回、この研修を通じて、様々な支援事業があることを学んだ。当学童クラブも申請することにより、職員の業務省略化につながる事業もあることが分かった。今後精査しながら申請していきたいと思った。安全計画や業務継続計画等は、すでに作成済みなので、今後職員の研修を進めていきたいと思う。学童クラブの需要が増えてきていて、人材の確保に頭を悩ませているところであるが、まずは事業を理解し、人材確保につなげていきたい。
- ◆ 核家族化が進み、地域とのつながりが希薄になっていく中で、安心安全に子育てができるように放課後児童クラブは、その役割の一端を担っていかなければならないと感じました。放課後児童健全育成事業をよく理解し、地域や学校等と連携しながら、全ての子どもが、放課後を安心安全に過ごし、主体的な活動ができるようにサポートしていきたいと感じました。
- ◆ 今回の研修で、様々な支援事業があることを初めて知りました。事務的なことにはほとんど関わっていませんが、備品購入や放課後児童支援員等処遇改善など、頭に入れておきたいことばかりでした。また、新・放課後子ども総合プランを知り、とても魅力的だなと感じました。モデルケースの遊びを中心とした空間と学習や読書を中心とした空間をきちんと部屋分けされているのもいいなと感じました。
- ◆ 私が働く児童クラブでは、子どもに接することとその他の事務業務を両立している。放課後児童クラブ育成支援体制強化事業を取り入れることで、業務の負担が分散され、子どもに集中できる環境が整えられるので、自分が働くクラブにも取り入れて欲しいと思った。だが、人件費の面を考えると難しいのかもしれない。また、児童館の仕組みについて知らないことも多く、児童クラブ以外の施設について知識を得ておくことも大事だと感じた。
- ◆ 放課後児童クラブの運営に関する事業は、現在15もの事業があると知りました。近年の女性の就業割合の高まりや核家族化の進行など、児童と家庭を取り巻く環境の変化を踏まえたものであり、すべての子どもが適切な支援を受けるために必要な事業であると分かりました。また、支援員が子どもたちの関わりに専念できるように作られた事業もあり、細やかな配慮がなされていると思いました。これらの事業により、育成支援が充実していくと良いと思います。